

眉をあぐれば

秋田県立雄物川高等学校
校長室だより 第1号
平成29年5月8日(月)
文責 信田 正之

眉をあぐれば

P T A総会の折に、本校の卒業生だというお母さんたちと事務室前で立ち話をしました。そのうちの一人は古い木造校舎の時代を過ごし、一人は今の校舎が完成したときに本校で学んだのだと嬉しそうに話してくれました。そういえば、事務室の壁には今の校舎が完成した直後の正面玄関を撮った写真が飾ってあります。残念ながらかなり色褪せてはいますが、お母さんたちの話から、完成したばかりのころはさぞかし美しかっただろうなと思わずにはいられませんでした。

今の校舎は、昭和57年から建築工事が始まり、昭和60年に完成していますので、すでに30年以上が経過していることとなります。当然ながら校舎は古くなり、外壁も色褪せてきています。でも、今の学校には年齢を重ねたものだけが醸し出す美しさを感じられます。一つは、校舎のまわりにある樹木や草花です。写真を見ると、完成間もないころの校舎周辺は木々が少なく、あってもまだ低くて何だか殺風景です。でも今は、校舎の周りの樹木が高く生い茂り、グラウンドは青々とした芝生で覆われ、四季折々に校舎を美しく彩ってくれます。もう一つは、校舎の中がきれいに保たれているということです。もちろん、30年間で蓄積した傷や汚れは隠しようがありませんが、古いながらも清潔感があり、今まで大切に扱われてきたことがうかがえます。そして何より、遠くに秀峰鳥海山が眺められることも、学校を美しく彩る要因ではないでしょうか。

校歌の冒頭に「眉をあぐれば鳥海の 秀嶺（ほつね）輝く学園に」という歌詞があります。「眉をあぐる」とは、「眉を上げる」の古典的言い回しですが、一般的に「眉を上げる」には「怒りの表情を見せる」という意味があるそうです。でも、校歌にそのような表現が用いられるはずはありませんので、ここでは「ものをよく見る」という意味でとらえた方が自然です。人が何かを注視しようとする時、自然に目が大きく開き、同時に眉が上がります。「目を開いて鳥海山を眺めれば、秀嶺つまり美しい山頂が輝いて見えるよ」と校歌は述べています。そして同時に、「そのような鳥海山に見守られ学校は存在しているのだ」とも語っています。

「眉を上げる」には、もう一つ意味があると思います。それは「大空を見上げるように大きな希望をもつ」という意味です。鳥海山の秀嶺の上には、さらなる空間が広がっています。「顔を上げ、目を開き、鳥海山の向こう広がる世界に夢を描いてほしい」と校歌の作者は願っていたに違いありません。鳥海山を臨む美しい校舎で、校歌を歌い継いできた一万一千人を超える卒業生は、全員が「眉を上げて」学ぶ心や力を身に付け、自分の未来に希望を抱いて社会に巣立っていきました。「次は君たちの番だよ」と、あの立ち話をしたお母さんたちから、そう心の声が聞こえたような気がしました。